

令和元年度 牧之原市立相良小学校 ふるさと科【自己評価】報告書

学校名：牧之原市立相良小学校 所在地：静岡県牧之原市波津 1642

児童数：523名 学級数：20学級（特支2学級含む）

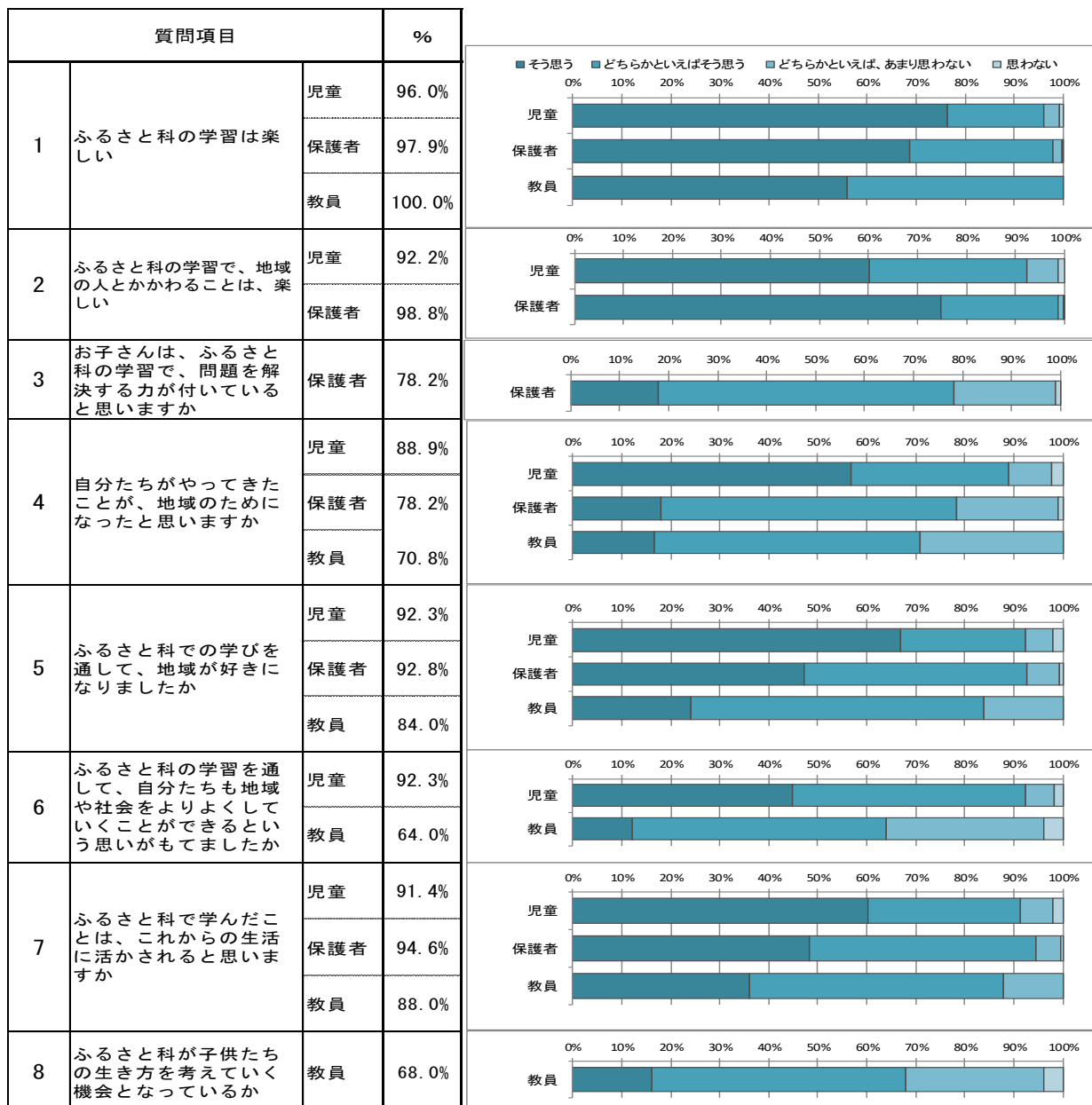
教育目標：自立 共生 創造

相良小コンピテンシー：〔自立〕自尊感情・判断力・主体性

〔共生〕思いやり・コミュニケーション力・協働力

〔創造〕感性・思考力・問題発見解決能力

ふるさと科自己評価結果 令和2年1月実施



【考察】

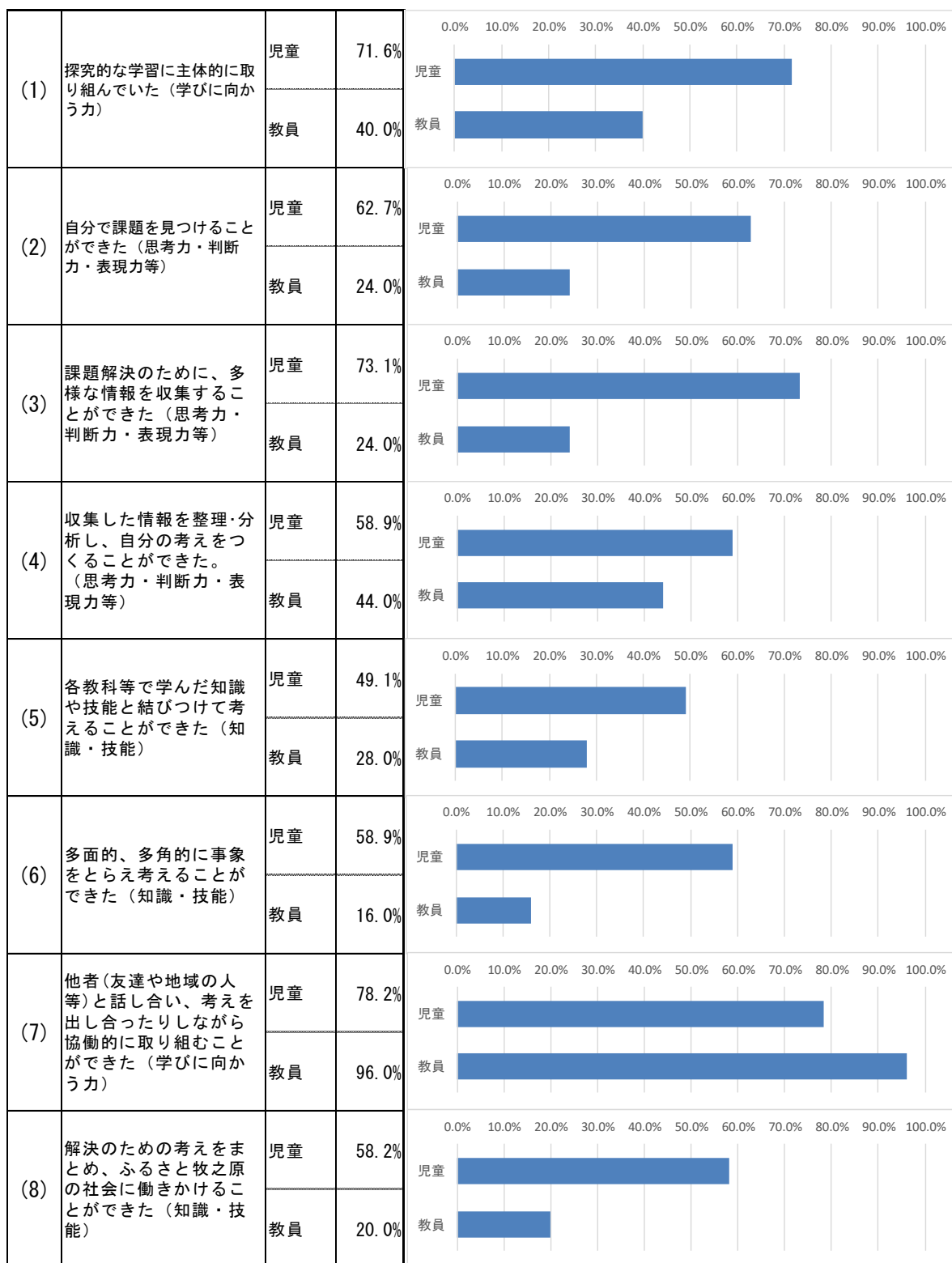
地域を見つめ知ることで生まれてきた課題を解決しようと取り組む過程で、地域の方々とかかわり、地域の方々から学んだり、共に考えたりする場をもったことによって、地域の方とかかわることの楽しさを実感できたと思われます。

また、児童が地域のために何ができるかを考え、児童の地域への願いや思いを実現しようとする学びの中で、地域の一員としての自覚や愛着が高まり、「ふるさと科」での学びを楽しんでいるようになったことも成果といえます。

さらに、自分たちも地域や社会をよりよくしていくことができると思うと回答した児童が90%を超えており、ふるさと科のねらいの一つである社会参画や地域貢献の気持ちが育まれてきていると思われます。

一方、ふるさと科に込められた児童が生き方を考えていく機会となっているかについての教員の評価が比較的低いことから、指導計画の中でキャリア教育の視点を明確に位置づけていく必要があります。

9 ふるさと科で、どんな力がついたと思いますか。



【考察】

ふるさと科の学びを通して、どんな資質・能力が育まれたかについて振り返る設問については、(1)主体的な学び、(3)多様な情報の収集、(7)他者(地域の方々や高校生、友達など)との協働という三つの設問で、70%以上の児童が力がついたと回答しています。地域の中から課題を見だし、自分たちの願いや思いを実現させていく学びが展開されているため、児童の課題解決に対する意欲が高まり、他者とかかわり協働していくことで自分たちの考えがより深まっていく実感をもてたことが高評価の要因と考えられます。

一方で、各教科等で学んだことをふるさと科の学びに活かしたり、多面的・多角的な考察をしたりといった点は評価が低いことから、より一層カリキュラム・マネジメントの視点を意識した取組をしていかなければなりません。各教科等で学んだ資質・能力を活かす場面を意図的に設定するとともに、活用できた場合には、児童自身にメタ認知させていくなどの指導の工夫も積極的に行っていきたいと考えます。

令和元年度 牧之原市立相良小学校『ふるさと科』学校関係者評価書

評価者：学校評議員 4 名・地域学校協働委員 3 名

評価日：令和 2 年 2 月 6 日(木)

1 田沼意次侯生誕 300 年祭の取組について

- ・友達と一緒に、地域の方と関わりながら、田沼意次侯生誕 300 年祭へ向けて課題解決できたという意識は大きい。喜びや達成感、主体性につながっている。
- ・さわやか学級が、商店のことをよく調べ、知らない人にも上手に発信していた姿がよかった。先生方の、話し方や発表の仕方の指導がしっかり入っていたことがわかる。3 年生の商店訪問も同様であった。
- ・地域の方と直接かかわる学習は、非常に貴重な体験である。地域の方も、学校にいて子どもたちの様子を見てみようという気持ちになる。
- ・5 年生の落下飴の製品化もよかった。6 年生の商品化もよかった。
- ・4 年生のお茶フェスは、子どもたちが自分から知らない人に、失敗談まで語っている姿があった。こういう姿も普段の授業で培ったものであると思う。

2 ふるさと科の発信の場について

- ・発信の場を設定することは、それが子どもの意欲にもつながるのではないか。
- ・1 年から 6 年が互いに見せ合うような場をつくれば、下学年の子どもたちは上級生の発信を見て、目標を持つことができるのではないか。
- ・軽トラ市など、地域で行われている行事を活用することも考えられる。

3 これからのふるさと科について

- ・来年度は、田沼意次侯生誕 300 年祭のようなイベントがないので、目標をどう設定していくかが難しいと思う。
- ・地域の方に、生活していく上で、どんな課題が見えているのかを直接聞いて、そこから課題を見いだしていけるような学習もよいのではないか。
- ・田沼意次は教材の一つなので、さらに多くの教材を地域から見いだして、学習を進めていってほしい。
- ・市役所としても、例えば、今、海離れが進んでいるなどの課題や地域の実情を子どもたちに伝えていくことはできる。

4 地域とのつながりについて

- ・1、2 年生がサトイモやサツマイモ作りで、地域の多くの方とかわっていた。
- ・地域の方とのつながりを大切にしていけるふるさと科であってほしい。
- ・地域の方が、学校に足を運んでもらえるようにしていくことができればいい。